

第14回 環境振動評価小委員会 議事録 (案)

A. 日 時 2012年5月28日 月曜日 17:30~19:30

B. 場 所 建築会館 会議室

C. 出席者 益田主査、他6名

D. 提出資料 (提出委員名敬称略)

No. 14-0 第13回環境振動評価小委員会議事録 (案)

No. 14-1 大会プログラム編成会議報告

No. 14-2 環境振動評価小委員会 評価 WT 活動報告

No. 14-3 環境振動評価小委員会 説明性 WT 活動報告

No. 14-4 環境振動評価小委員会 広域実測 WT 活動報告

No. 14-5 環境振動評価小委員会 データベース WT 活動報告

No. 14-6 「微小凹凸を有する車輪踏面による曲線通過性能向上に関する数値解析」

E. 議事内容

1. 議事録確認 (資料 14-0)

◇ 承認された

2. 議論

1) 資料 No. 14-1 大会のプログラム編成について益田主査より説明

「環境振動」は平成24年9月14日 9:00~行われる。

総数37編 (7セクション) となった。内訳は以下の通り。

◇ 午前 「建物応答 (6編)」、「床振動1 (5編)」、「床振動2 (5編)」、「振動評価 (6編)」

◇ 午後 「地盤伝搬・モニタリング1 (4編)」、「地盤伝搬・モニタリング2 (4編)」、「振動対策 (3編)」

2) 資料 No. 14-2 環境振動評価小委員会 評価 WT 活動報告について益田主査より説明

◇ WT5回開催 「評価のあり方に関する意見交換」、「評価指針に関する意見交換、関連資料の収集」を実施

◇ 活動目標 評価関連資料の整理 評価方法の検討に資する知見とする
評価指針の検討 評価の枠組みを構築する

3) 資料 No. 14-3 環境振動評価小委員会 説明性 WT 活動報告について説明

◇ 環境振動を表す指標の「見える化」に関して

・対象範囲に関する議論

・見える化のあり方

・表現方法について

◇ 潜在的な問題の抽出と問題解決のための糸口

・現状の実態調査

・知覚確率の説明について

・範囲拡張について

・地震時、台風時の意識調査

◇ 活動目標

見える化の表現方法のブラッシュアップ、潜在的な問題の抽出では実務者からの意見を取り入れるなど
→振動に対する意識

- ・周期 5 秒を超えるマンションもある。3 秒とは感じ方が異なる
- ・後楽園ホテルは敢えて風揺れ情報を見せている
- ・定性的に見せることは難しい。定量的ならまとめられるか
- ・日常的なものと非日常的なものでは反応が異なる

4) 環境振動評価小委員会 広域実測 WT 活動報告について説明

「ワイヤレスセンサーネットワークによる環境振動広域モニタリング」の論文報告。

→振動計は安価であるが内部ノイズが問題。

- ・環境省が興味を持っている
- ・モデルハウスでも鉄道は加振源が大きいためデータが取り易い
- ・加振域の速度変化の中でも共振域で最も揺れる

5) 環境振動評価小委員会 データベース WT 活動報告について説明

◇ 「某工場の建屋 交通振動の予測結果と計測地の比較」の例の説明

振動を嫌う工場の新設に際し、前面道路のアスファルトの継ぎ目の有無による振動を計測し、加工作業の怨限度を設定した例を示した。

6) 「微小凹凸を有する車輪踏面による曲線通過性能向上に関する数値解析」について益田主査より説明
列車の転動振動の予測に、伝達関数を用いて予測する手法の例を示した。

7) その他

- ・シンポジウムのテーマに広域モニタリングの例で、住宅データが多いため最適ではないか
- ・工業化住宅なのでデータのばらつきが無く整っている
- ・悪条件が重なった時に苦情となる
- ・環境振動を表す指標の「見える化」を提言するのも今が好機かもしれない

3. 次回以降の課題

◇ 本年度も継続して WT 活動を行い、その結果を環境振動シンポジウムで報告していくことを視野に入れる。小委員会にて WT 報告を纏めて学会に提出する

4. 次回開催予定

◇ 未定 幹事より調整 2012 年 8 月 日 () 17:30～ 本会会議室